

多面版SDGsローカル指標を 用いた活動量評価にかかる試行 調査等と今後の展望について

令和4年3月16日

農林水産省

目 次

1	令和3年度の検討概要について	1
2	活動量評価について	2
	（1）多面版SDGsローカル指標による活動量評価（全国の傾向）	2
	（2）多面版SDGsローカル指標による活動量評価（都道府県の特徴）	3
3	活動量評価にかかる試行調査等について	4
	（1）試行調査（市）	5
	（2）補足調査（活動組織）	9
	（3）補足調査（大学生）	11
4	指標の把握方法	15
5	まとめ	16

1 令和3年度の検討概要について

- 令和2年度において、SDGsの目標・ターゲットの達成に貢献する本交付金の活動内容と指標を「多面版SDGsローカル指標」として整理した。
- 令和3年度においては、（１）毎年報告される実績報告を基に、同指標の値を全国や都道府県等を単位とした「活動量評価」として整理した上で、同指標の活用方法や実績報告等により定期的に把握すべき内容を検討するとともに、（２）「活動量評価」にかかる試行調査を実施し、今後の普及方法等を検討する。
- 今回、2市で行った試行調査結果を報告するとともに、補足的に行った調査結果も併せて報告した上で、今後の進め方（案）を示す。

活動量評価

第1回委員会にて報告

- ・ 多面版SDGsローカル指標を用いて、全国や都道府県を単位とした取組状況（SDGsへの貢献状況）について、「カバー率」と「取組組織の割合」の2つの評価軸を通して評価。
- ・ 平成27年度（I期対策2年目）、平成30年度（I期対策5年目）及び令和2年度（II期対策2年目）の3つの時点における取組状況を整理し、変化を把握。

表 取組状況を評価する際の評価軸

カバー率 (取組面積割合)	全国の農振農用地面積に占める当該活動を行っている組織の認定農用地の面積割合 例)実施状況の把握:水質保全に取り組む組織数 カバー率 : Σ 取り組む組織の認定農用地 ÷ 全国の農振農用地面積
取組組織の割合	当該活動を行っている組織数の割合 例)実施状況の把握 : 水質保全に取り組む組織数 取組組織の割合 : 水質保全に取り組む組織数 ÷ 全組織数

活動量評価にかかる試行調査等

第2回委員会にて報告

- ・ 2市（X市、Y市）を対象に、多面版SDGsローカル指標や活動量評価にかかる試行調査を実施。

補足調査

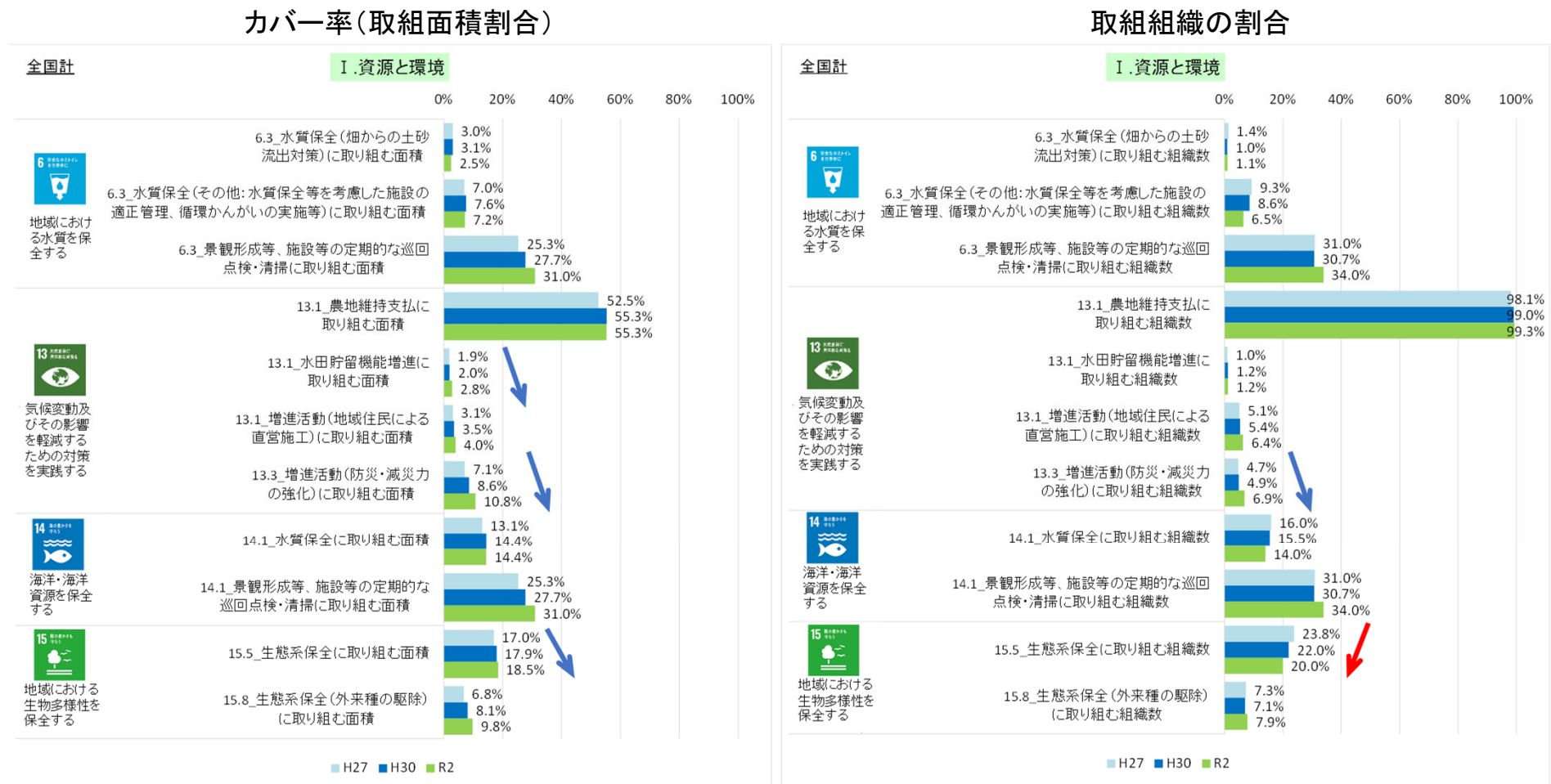
- ・ 活動組織（両市から各2組織、計4組織）を対象に、当該指標の活用方法等を調査。
- ・ さらに、若い世代（大学生）を対象に、地域の共同活動がSDGsへ貢献していることを知った際に共同活動に関心を持つかどうか等を調査。

2 活動量評価について

(1) 多面版SDGsローカル指標による活動量評価（全国の傾向）

- 多面版SDGsローカル指標を用いて、実績報告を基に平成27年度、平成30年度及び令和2年度の全国の取組状況（SDGsへの貢献度）を活動量評価として整理*した。
- 取組状況は目標、指標により異なり、地域によっても異なるが、多面版SDGsローカル指標を活用することにより、取組の変化を見える化することが可能である。

図 活動量評価(全国の傾向)(一部抜粋)

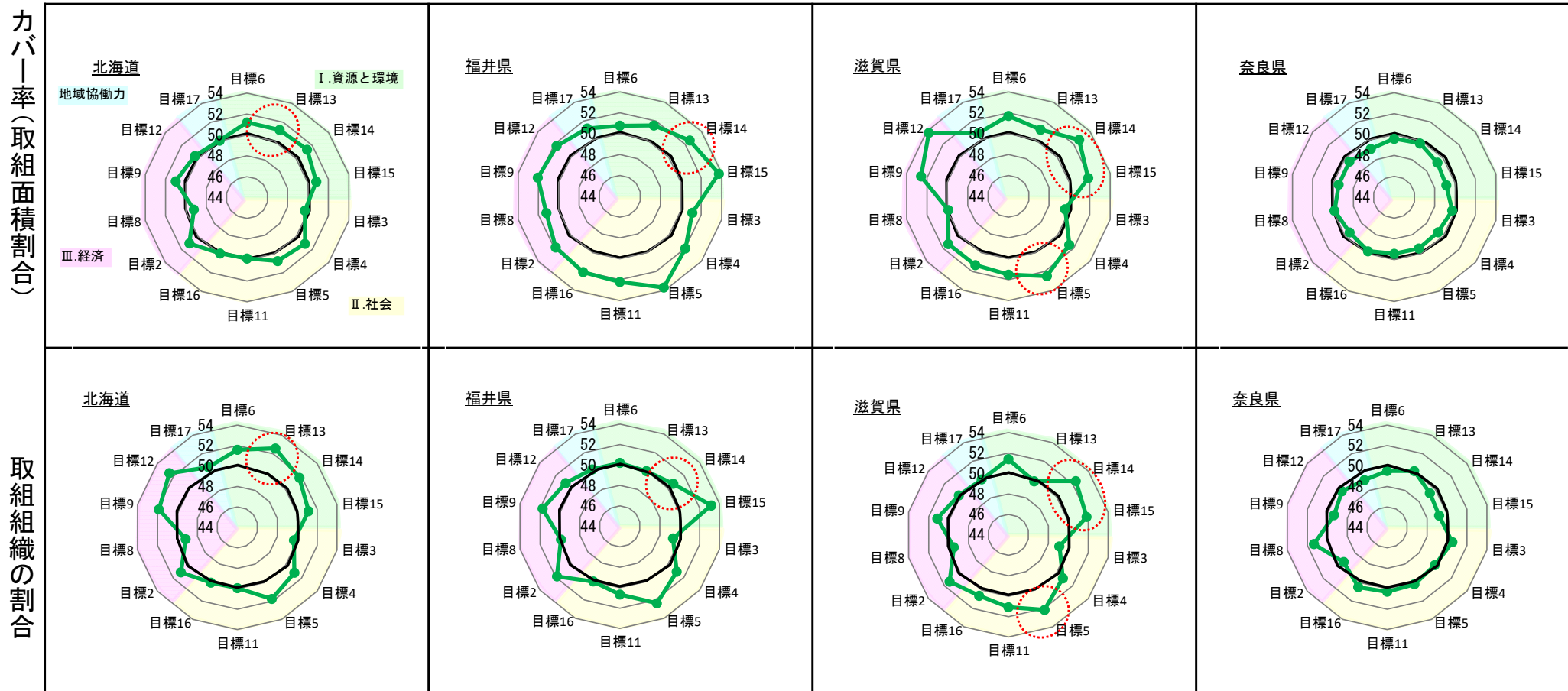


* 活動量を整理する際は、本交付金を実施する上で毎年定期的に報告される実績報告を用いているため、特別な調査を必要とせず、簡単かつ継続的に評価することが可能

(2) 多面版SDGsローカル指標による活動量評価（都道府県の特徴）

- 多面版SDGsローカル指標を用いて、実績報告を基に令和2年度の各都道府県の実績状況（SDGsへの貢献度）を活動量評価として整理*した。
- 取組状況を他県等と比較することにより、当該地域の取組の特徴、経年変化を客観的にとらえることが可能である。都道府県にとっては、県内ブロックや市町村単位での分析も可能である。
- 地域の実情に応じた目標設定や達成度の把握に役立てることができるため、都道府県、市町村の推進施策の立案及び評価ツールとして活用が可能である。

図 各都道府県の目標別偏差値(令和2年度)



注: グラフの値は、都道府県別に各指標の値を整理し、その偏差値を目標毎に平均した値、黒い太線は偏差値50を示している。

* 活動量を整理する際は、本交付金を実施する上で毎年定期的に報告される実績報告を用いているため、特別な調査を必要とせず、簡単かつ継続的に評価することが可能